

ポスト・コロナの


甲南大学
開学70周年記念
シンポジウム

博物館運営

2021年10月2日[土]
14:00-16:00 [開場 13:30]

新型コロナウイルスのパンデミックは博物館が抱える様々な問題を顕在化させました。
博物館を最前線で支える方々をゲストに迎え、文系理系の枠を超えて博物館が目指すべき未来の姿を考えます。

会場

 甲南大学 岡本キャンパス 5号館511教室

T 658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1

*当日は、マスクの着用、手指の消毒等、感染症対策へのご協力を
どうぞよろしくお願いいたします。

申込み

参加無料 要事前申込み

(先着90名様・9月1日受付開始)

下記QRコードか甲南大学ウェブサイト
(<https://www.konan-u.ac.jp/>)のイベント情報よりお申込みください
博物館・美術館に興味のある方は、ぜひご参加ください。



ポスト・コロナの博物館運営

甲南大学開学70周年記念シンポジウム



* 進行：服部正（甲南大学文学部）

* 指定討論者：西欣也（甲南大学文学部長）、今井博之（甲南大学理工学部長）

登壇者（敬称略、50音順）

小野田一幸 | おのだかずゆき
[神戸市立博物館学芸課長・学芸員]
伊丹市教育委員会、神戸市立博物館学芸課学芸員、神戸市教育委員会文化財課学芸員等を経て、2016年より現職。専門は、歴史地理学。歴史地理学会評議員、編集委員。共著に『図説 日本古地図セレクション』（河出書房新社、2004）、編著に『近世刊行大坂図集成』（創元社、2015）など。神戸市立博物館にて、今夏の伊能図上呈200年記念特別展『伊能忠敬』を共同企画。

亀田佳代子 | かめだかよこ
[滋賀県立琵琶湖博物館上席総括学芸員（動物生態学）]
1996年より同館に勤務。2019年より現職。生態系における水鳥の機能や鳥と人の関わりについて研究を行う。主な著書に『Why Birds Matter: Avian Ecological Function and Ecosystem Services』（分担執筆、The University of Chicago Press、2016）、主な展示企画として「こまった！カワウ-生きものとのつきあい方-」（琵琶湖博物館、2011）など。

島敦彦 | しまあつひこ
[国立国際美術館館長]
1980年4月より建設準備室を経て富山県立近代美術館に勤務。1982年1月より国立国際美術館に移り、2013年10月より同館副館長兼学芸課長。2015年4月より愛知県美術館館長。2017年4月より2021年3月まで金沢21世紀美術館館長を務め、2021年4月より現職。主な企画展として、「内藤礼」、「安斎重男の服1970-1999」、「島山直哉」、「絵画の庭—ゼロ年代日本の地平から」、「あなたの肖像—工藤哲巳回顧展」など。

主なトピックス

- パンデミック下での博物館の対応について
- 博物館が活動を続けるうえで何が障害だったのか
- 地域連携・博学連携における課題
- コロナ禍から見えてきた博物館の未来とは

会場アクセス

甲南大学 岡本キャンパス 5号館511教室

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1

阪急神戸線岡本駅より西へ徒歩10分、JR神戸線横津本山駅北口より北西へ徒歩12分
※駐車場はございませんので、公共の交通機関をいいただくか、近隣のコインパーキングをご利用ください。



新型コロナウイルス感染症に伴う活動の制限は、博物館の運営にも大きな影響を及ぼしました。休館や入場者数の制限によって、これまで開催してきた大規模な集客型展覧会の運営形態そのものが再考を迫られました。博物館がこれまで進めてきた学校教育との連携や地域社会との連携にも大きな障害が生じました。一方で、IT技術の積極的な活用や収集資料の見直しなど、この機会に博物館は新たなアイデアで多くの創意工夫を行ってきました。

甲南大学では、人文系博物館と自然史系博物館の学芸員養成課程を融合的に運営してきたカリキュラムの特色を活かして、歴史系、美術系、自然史系の博物館の専門職員を招いたシンポジウムを開催します。新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより博物館が受けた影響を行った対策、パンデミックの状況の中で顕在化したこと、見出された新たな可能性などを共有し、文系、理系の枠を超えて博物館が目指すべき未来や大学等の研究機関との協働の可能性について考えます。